

来月8日の北京五輪開幕まで残り1か月を切った。前回アテネ大会で、日本は1964年東京大会に並ぶ16個の金メダルを含め、史上最多の37個のメダルを獲得。2016年東京五輪の招致活動が本格化する中で迎える今回も、日本の活躍が期待されている。日本経済団体連合

北京五輪 3氏が会談

—まず、五輪の魅力についてお伺いします。山下さん、増田さんとも出場された1984年ロサンゼルス五輪を、米国に滞在されていた御手洗さんも観戦していたと聞きました。

御手洗「柔道会場で応援していました。負傷していた山下さんが、決勝でラッシュン選手を抑え込んで勝ったのを見て感激しました。有終の美を飾ってほしいと期待していた山下さんが、足を引きずって出てきた時は負ける姿を見たくないと思いましたが、頭一つ大きい相手に勝ちました」

山下「心配をかけたながらも、勝って良かったです」

御手洗「私の見たスポーツの中で最も感激したシーンの一つですね」

—4年に一度しか開催されないのも、五輪の魅力ですね。

閉塞感 メダルで破れ

会長の御手洗富士夫さん(72)、84年ロサンゼルス五輪に出場した柔道の山下泰裕さん(51)、女子マラソンの増田明美さん(44)が、五輪の魅力や思い出、アジアで3度目の開催となる今大会への期待を語り合った。

(司会は東京本社運動部長・井原敦)

こともあり、逆に期待されていない選手が優勝することもある。波に乗ると思わぬ力が出たり、プレッシャーを受けて普段の力が出なかったり。五輪は独特です」

増田「走っていて日の丸が見えると、涙が出ます。五輪で見る日の丸ほど胸にジーンとくるものはないですね」

山下「表彰台の上から日の丸を仰ぎ見た時の気持ち

は生涯忘れないでしょう。オレは世界で一番幸せな男ではないか、という思い出ですね。中学2年生の時、『将来の夢』という作文の中で、僕は五輪に出場するのが夢で、現役をやめた後は柔道の素晴らしさを広めたいと書いた。その夢の中で今も生きており、夢を持ち続けることの素晴らしさを実感します」

御手洗「子供のころの夢を実現できる人はめったにいませんよね」



増田 明美(ますだ・あけみ) 1964年、千葉県生まれ。成田高(千葉)時代、五千円、一万円など長距離種目で日本記録(当時)を樹立。82年に初マラソンで日本最高(当時)をマークした。女子マラソンが初採用された84年ロサンゼルス五輪に出場したが、無念の途中棄権。92年に現役引退後はスポーツジャーナリストとして活躍し、大阪芸術大教授も務めている。

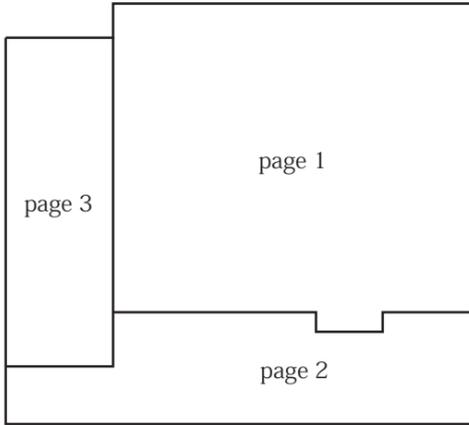


山下 泰裕(やました・やすひろ) 1957年、熊本県生まれ。柔道の全日本選手権9連覇、世界選手権95キロ超級3連覇など輝かしい戦歴を持ち、85年に203連勝のまま現役を引退した。84年ロサンゼルス五輪無差別で金メダルを獲得し、同年に国民栄誉賞を受賞。アトランタ、シドニー両五輪では全日本男子監督を務めた。東海大体育学部教授。



御手洗 富士夫(みたらい・ふじお) 1935年、大分県生まれ。61年、キヤノンカメラ(現キヤノン)入社。キヤノンUSA社長、代表取締役社長を経て、現在は代表取締役会長。2006年から日本経済団体連合会会長を務める。約20年の米国での勤務経験があり、米ビジネスウィーク誌の「世界のトップ経営者25人」に02年、03年と2年連続で選ばれている。

増田氏 野口さんに期待
 山下氏 初日の谷で勢い
 御手洗氏 水泳陣の活躍を



は取るほど、強くなってきます」

——さて、北京五輪開幕まで残り約1か月。どんな競技や選手に期待していますか。

増田「やはり女子マラソンの野口みずきさんです。マラソンで2大会連続の金メダルは、過去に男子で2人しか達成していない。女性では初の快挙を達成する可能性があります。野口さん

のモットーは『走った距離は裏切らない』。月間走行距離は多い時で1350キロに上り、いつも目標が明確で、それを成し遂げる意志の力がすごい。ぜひ悲願を達成してほしい。陸上以外では、チーム競技が楽しみです」

山下「アテネ五輪は競技初日の柔道と水泳の活躍で波に乗りました。今回、柔道では初日に女子48キロ級の谷亮子と男子60キロ級の平岡拓晃が登場します。チームジャパンの雰囲気をつくって盛り上げてもらい、全体でアテネに近い結果を残してほしい。今回の五輪で実施競技から消えてしまいましたが

野球にも期待しています」
御手洗「私は水泳ですね。日本に戦後、勇気を与えたのは古橋広之進。私の出身地の大分は海に面しており、子供のころ、夏は一日中、海で遊んでいた。水泳がとても盛んで、私も大好き。泳ぐたびに新記録をマークする古橋の活躍を聞くたびに、ラジオにかじりつき、感激したことは今でも忘れられません。水泳ニッポンの活躍で、プールサイドに日の丸が何度も揚がるのを見たい」

山下「競技ごとに開かれる世界選手権と違い、五輪は、いろいろな競技の選手が選手村に集まり、宿泊するため、一つの競技の結果が、ほかの競技の選手たちにも影響を与える面があります。ほかの競技の選手の結果に一喜一憂し、みんなが仲間に見えてくるんです」

——一方、国際的に存在感を増している中国に対しては何を期待しますか。
御手洗「中国は素晴らしい歴史と文化を持った国です。五輪では、変身した中国を見てもらいたいという純粋な気持ちがあると思います。五輪をきっかけに世界の人も中国を理解するでしょう。五輪はスポーツで競う祭典であって、国威を競う祭典であってはならない。本来、政治とは無縁のもので、平和の祭典であってほしいと思っています」

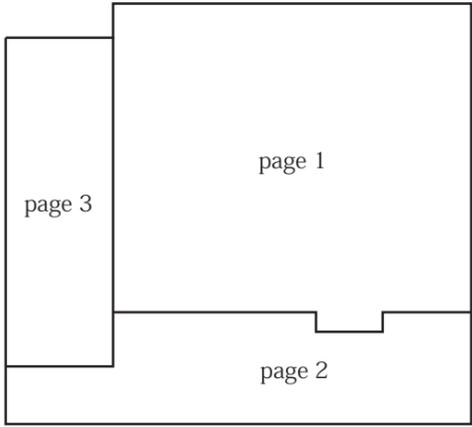
——とはいえ、五輪は政治不介入の理想を追い求めながら、いつも政治に介入されています。
山下「選手に犠牲を強いるのは安易な方法です。私は日本がボイコットしたモスクワ五輪の悲劇を体験しているので、特に強くそう思います。思い出したくない、忘れたい過去。当時、『次の五輪、頑張る』と言われると、苦痛に感じました。次の五輪までの4年という月日は、あまりにも長過ぎますから」

——選手にとって、それほどの重みがある五輪で、今回も日本のメダルラッシュを見たいですね。どれぐらいのメダルが期待できると思われますか。
増田「選手にとっては(予想メダル数は)あまり言われたくないことなんですよね。日本陸連はメダル2、入賞5を目標に掲げました」

山下「柔道は前回、全14階級のうち8階級で金メダルを取り、過去最高の結果でしたが、その好成績によりライバルとなる国の監督がそろって代わり、各国とも『日本に柔道をさせない』と必死です。今大会は厳しい戦いになるでしょうが、そんな中で取ったメダルは一層、価値が高くなります」

御手洗「たくさんのメダルを取ってほしいと思っています。今の世の中を覆っている閉塞感を破るような吉報を聞きたいですね」

(敬称略)



東京開催をもう一度

御手洗「柔道が五輪で採用されたのは東京五輪からでしたね。五輪から消えていく競技もある中で、柔道は世界に広がった素晴らしい競技です」

増田「私は、生まれた年に開かれた東京五輪の記憶はありませんが、東京五輪の雰囲気を感じた人としてうでな人では、五輪観がずいぶん違つと感じます」

御手洗「私は東京五輪の当時、サラリーマンで営業をやっておき、お客さんに五輪の切符を配って歩いていました。10歳で終戦を迎え、それから19年後の東京五輪。復興の中で生きてきて、我が国も敗戦から完全に立ち上がったと思つた。うれしくて、日本を誇らしく感じました」

増田「東京五輪を見た人は、その思い出を楽しそうに振り返りますね。それを聞くと、こちらにもワクワク感が伝わります。日本が一つになって頑張つていくパワーを感じる。当然、日本に接して知ってもらいたい。日本人も元気づき、競技力も向上する。何とか東京で開催したい」

御手洗「われわれ日本人、特に子供たちにとって国際的な感覚を啓発される最大のチャンス。様々な国・地域の人との交流で世界の広さを実感できます。五輪を見て、自分も出場したいと夢見る子もいれば、将来は世界中を歩いて仕事をしたいと思う子もいるでしょう。子供には無限の可能性があり、それは刺激によ

今回、どのような五輪ができるのか。東京だけでなく、日本が一つになり、考えていかなければいけないと思つます」

御手洗「われわれ日本人、特に子供たちにとって国際的な感覚を啓発される最大のチャンス。様々な国・地域の人との交流で世界の広さを実感できます。五輪を見て、自分も出場したいと夢見る子もいれば、将来は世界中を歩いて仕事をしたいとと思う子もいるでしょう。子供には無限の可能性があり、それは刺激によ

山下「最近、気になるのは、日本の若者が内向きになっていくこと。新しい世界に飛び込んでいく傾向が薄れているのではないだろうか。もっと世界を知らないといけない。早い時期から外に目を向け、積極的に出ていく姿勢を持つてほしい」